

イカナゴ



Ammodytes personatus

地方名

ちりめん(体長20～30mm)、こうなご(体長30mm以上の1歳未満魚)、おおなご、めろうど(2歳以上)

生態

寿命：約5歳

成熟：オスメス共に2歳(体長16.0cm)以上

産卵期：1月～4月

産卵場：水深50m付近の砂礫質の海底

分布：沖縄を除く日本各地。本県では陸奥湾湾口部、津軽海峡沿岸と太平洋沿岸。

生態：主に昼は遊泳し、夜間は砂の中に潜る。7月～10月の夏季には夏眠する。食性は端脚類、橈脚類、オキアミ類などの動物プランクトン。

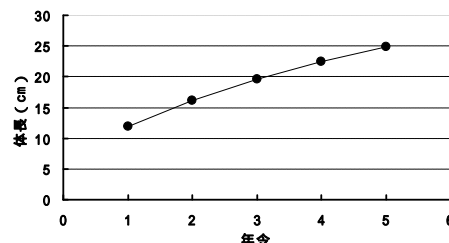


図 青森県におけるイカナゴの成長

主な漁業

定置網、光力利用敷網で漁獲。陸奥湾と太平洋で主漁期は4月～6月。

資源評価

昭和54年の1,606トンを最後に、昭和55年以降1,000トン以下の状況が続き、平成7年からは変動幅は大きいものの1,000トンを超える漁獲量があった。しかし近年は、減少傾向にあり、平成19年は78トンであった。

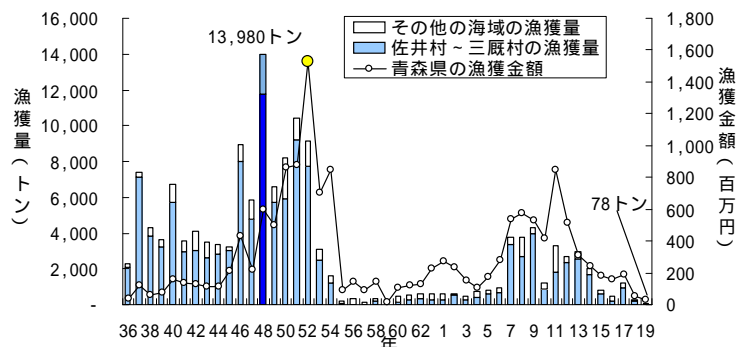


図 青森県イカナゴの漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために



資源管理計画(脇野沢村漁協及び佐井村漁協 平成11年3月)

- ・大羽(煮干の規格、7cm以上)の漁獲禁止、6月末を終漁期の基準とすることを定めた。

資源管理計画(三厩村漁協、旧今別町西部漁協、旧今別町東部漁協、外ヶ浜漁協、蓬田村漁協 平成14年3月)

- ・漁の終期を漁獲状況等を考慮し、漁業者間で協議して決定する、親魚は漁獲しないことを定めた。
- 青森県イカナゴ資源回復計画(上記2計画参加の漁協 平成19年3月、28ページ参照)
- ・漁期の短縮、小型定置網の操業統数を制限することを定めた。
- 上記の取り組みを継続することが必要。

トピックス

平成19年の極端な不漁は東北海域で同様であり、暖冬が影響したと考えられている。また、平成19年10月に太平洋岸の東通村尻労沖で、夏眠中のイカナゴが採集されたことから、この海域にも夏眠場があることが判明した。